

入学時期:	11月生	学科:	上級行政科	コース:	2年	クラス	
科目名:	<b>経済・社会</b>					年次:	<b>2年次</b>
担当者:	増丸, 山口哲	単位:	5単位	授業時間:	75時間		

## ■授業概要・方法等

経済原論(ミクロ経済学, マクロ経済学)の講義・演習により, 大卒程度の公務員採用試験に合格する実力を養う。また, 財政の働きと仕組み及び租税などの意義, 通貨や貿易体制, 日本経済史について現実社会の諸事象を通して学習する。また, 現代の社会が抱える諸問題について, 諸資料から課題の解決に向けて考察, 構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し, 読み取る技能を身に付けることができるように学習する。

## ■学習・教育目標及び到達目標

経済原論(ミクロ経済学, マクロ経済学)の基本原則を理解し, グラフを読み取れるようになり, その上で, 公務員採用試験に対応できるようになる。

学生が, この授業を履修することによって

- (1) 現在, 新聞やニュースで取りあげられている経済と財政の問題について理解する
- (2) 近世・近代日本経済史の様々なピックについて, 歴史的事実とその関連性を理解する
- (3) 現代社会における諸問題について説明する ことができるようになる。

ひいては, 大卒程度公務員試験に出題される経済・社会・時事の平均的な問題に加え, 経済・社会・時事の難易度の高い問題に対応できる知識習得ができるようになる。

## ■成績評価方法および基準

- ・増丸: 試験(1回) 75%
- ・山口哲: 試験 25%

合否	合格			不合格
評価	A	B	C	不可
評点	100~80	79~70	69~60	59~0

## ■教科書

- 『上級教養 経済原論(ミクロ経済分野)』(本校独自)
- 『分野別過去問集』(本校独自)
- 『上級教養 経済原論(マクロ経済分野)』(本校独自)
- 『分野別過去問集』(本校独自)
- 『上級経済社会テキスト』(本校独自)
- 『上級経済社会過去問』(本校独自)
- 『上級経済社会解説』(本校独自)
- 『上級社会(社会保障)』(本校独自)
- 『公務員試験 速攻の時事』(実務教育出版)※授業では使用しない。

## ■授業計画の内容

### 時間割上の科目名:【教養経済】担当者:増丸浩三

時 数	内 容
1 ~ 2	ミクロ経済序論, 最適消費, 需要曲線, 完全競争市場の利潤最大化
3 ~ 4	市場の調整, 余剰分析, パレート最適, 不完全競争=独占・寡占(ゲーム理論)
5 ~ 5	貿易の利益, 比較優位, マクロ経済学序説, 国民所得と経済指標
6 ~ 7	財市場分析・国民所得の決定, 資産市場・貨幣市場の分析
8 ~ 9	IS 曲線, LM 曲線, IS-LM 分析, 失業, AD-AS 分析, 消費関数, インフレーション
10 ~ 11	ケインズ以降の学派, フィリップス曲線, 景気循環
12 ~ 40	難易度が高い問題・論点解説(1)
41 ~ 56	難易度が高い問題・論点解説(2)

### 時間割上の科目名:【経済・社会】担当者:山口哲夫

時 数	内 容
1 ~ 11	経済 第1編 財政と財政政策／第2編 租税制度／第3編 通貨・貿易体制 第4編 日本経済史／第5編 現代の企業
12 ~ 15	社会 第1編 環境・資源問題／第2編 同和人権問題／第3編 社会保障
16 ~ 19	過去問演習

## ■履修にあたっての注意事項

(教養経済)

記憶が定着しにくい科目ですので, 短いサイクルで復習してください。グラフを読むときは, 縦軸・横軸の単位を意識してください。グラフをきちんと覚え, 問題を解くときはグラフをイメージしてください。1 周目は基本的頻出的論点を解説し, 2 周目で過去問演習を行いながら, 1 周目では講義していない論点を解説します。

(経済・社会)

授業中に演習問題等を解く時間は少ないため, 授業で進んだ範囲の過去問は各自で進めておくこと。

## ■その他

特になし